報 告

「最期まで自宅で過ごしたい」患者と妻の想いを叶えることができた背景の考察 －終末期在宅医療を支える緩和ケア認定看護師，訪問看護師の役割とは何か－

小俣若子† 江面昌美[1] 熊木綾子[1] 猪俣聖子[1]
小池恵美[1] 中村亜希子[1] 藤中秀彦[2]

IRYO Vol. 77 No. 2（138－143）2023

要旨 【目的】国立病院機構新潟病院（当院）がある地域では，在宅看取りの体制がまだ十分に構築されていない．この研究では，「住み慣れた家で最期まで過ごしたい」終末期がん患者A氏と妻の想いを叶（かな）えた事例を振り返り，緩和ケア認定看護師，訪問看護師の役割について考察した．【方法】生前の看護記録からの振り返りをプロセスレコードで行い，アセスメントした．また在宅看取り後に患者の妻に，訪問看護についてのインタビューを実施，逐語録を作成し分析した．【結果】最期まで在宅で過ごせた要因として「通院中からの信頼関係」，「絶対来てくれる安心感」，などの７つを導き出せた．【考察】自分たち看護師が患者と妻の意思決定を訪問看護開始前の外来通院中から確認し，在宅看取り実施に向け取り組んできたことが「信頼感」や「安心感」に繋（つな）がった．患者と妻の不安は少なくなかったが，「信頼感」や「安心感」のおかげで，最期まで自宅で過ごす希望を叶えることができた．【結論】訪問看護師は，在宅療養で揺れ動く家族の気持ちに，時には一緒に揺れながら寄り添い，「希望」を支えることが大切と考えた．緩和ケア認定看護師は，苦悩や不安を理解し，心身の苦痛を和らげ，意思決定を支え続けて，訪問看護師へ橋渡しすることが大切と考えた．

キーワード　在宅看取り，緩和ケア認定看護師，訪問看護師

はじめに

平成26年医療施設調査特別集計（厚生労働省「平成28年７月６日，第１回全国在宅医療会議，在宅医療にかかる地域別データ集」[1]）によれば，新潟県の在宅看取り件数は141件，そのうち国立病院機構新潟病院（当院）がある地域では４件のみであった．私たち看護師は，外来待合室や，化学療法で点滴治療を受けている患者から，最期まで在宅で過ごしたいと願う言葉をしばしば聞く．また訪問看護師からは，訪問先でも病院に行くことを拒否し，在宅で過ごすことを望む患者も多いと聞く．当該地域には５病院，開業医27施設（診療所を含む）がある中，在宅看取りを行っているのは１施設のみである．山口

国立病院機構新潟病院 看護部，１）訪問看護ステーションゆきさくら，２）臨床研究部　†看護師
著者連絡先：小俣若子　国立病院機構新潟病院　看護部　〒945–0847　新潟県柏崎市赤坂町３–52
e-mail：komata.wakako.nf@mail.hosp.go.jp
（2022年５月23日受付，2023年４月14日受理）
Reconsideration of Our Support that Made Their Wish Came True of the Patient and His Wife who “Wanted to Spend at Home until the End”：
The Ideal Role of the Palliative Care Certified Nurse and the Visiting Nurse, who Support End-of-life Home Care
Wakako Komata, Masami Ezura[1], Ayako Kumaki[1], Seiko Inomata[1], Emi Koike[1], Akiko Nakamura[1] and Hidehiko Fujinaka[2], Department of Nursing, 1）Home-visit Nursing Station ‘Yuki Sakura’, 2）Department of Clinical Research
（Received May 23, 2022, Accepted Apr. 14, 2023）
Key Words：home care until the end, the palliative care certified nurse, the visiting nurse, silence and repetition